

# えほん だいあき！

3さいからのえほんリスト



生駒市図書館

## 『海へのあさ』

マックスロスキー／文・絵

石井桃子／訳 岩波書店 1,700円＋税



ある朝、サリーは歯が一本ぐらぐらしているのに気が付きました。抜けた歯を枕の下に入れて願いをしようとして、お父さんとハマグリ掘りをしていて、歯は抜けてなくていいです。がっかりしたサリーでしたが、お父さんと妹のジェインと一緒にボートで買い出しに出かけ、楽しい時を過ごしました。

作者が家族と暮らした小島での経験から生まれた絵本です。清々しい海辺の朝の情景、暖かい家族の様子や、島でのおおらかな暮らしが生き生きと語られています。紺一色で描かれたダイナミックな絵は、躍動感にあふれ、登場人物の豊かな表情を見事に表現しています。初めて歯が抜けるという経験は、子どもにとって、興味深く、サリーの行動を自分の経験に重ねて楽しむでしょう。読んであげれば、五歳ぐらゐから。

## 『うらしまらう』

時田史郎／再話 秋野不矩／画

福音館書店 900円＋税



ある日、浦島太郎は、子ども達にいじめられていた五色の亀を助けます。その亀は、実は乙姫でした。助けたお礼に案内された竜宮で、楽しく暮らすうち、三年の月日が流れます。太郎は、四季の見える窓から冬の故郷を見て恋しくなり、玉手箱を手に竜宮を後にします。ところが村に帰ると、三百年も月日が経っていて、両親も誰もいなくなっていました。太郎は悲しさのあまり、開けてはいけないと言われていた玉手箱を開け、白髪の老人になってしまいました。

唱歌でも歌い継がれてきたおなじみの昔話に、日本画で有名な秋野不矩が絵をつきました。涼しげな水彩画で、神秘的な海の世界が上品に描き出されています。四歳ぐらゐから大人まで充分楽しめるでしょう。

## 『ウルスリのすず』

ゼリーナ・ヘンツ／文 アロイス・カリジェ／絵

大塚勇三／訳 岩波書店 2,300円＋税



ウルスリは、スイスの山奥の村に住む男の子です。春を迎える鈴行列のお祭りに、一番小さい鈴しかもらえず、涙をこぼします。そこで、山の夏小屋に大きい鈴があることを思い出したウルスリは、まだ雪深い山を苦労して登り、たどり着いた小屋で、鈴を杖に眼り込んでしまいました。

繊細なタッチと美しい色彩の絵は、アルプスの自然の美しさ、厳しさ、子ども達の素朴な暮らしぶりを見事に描いています。子どもは、ウルスリと一緒に泣いて、心配したり、はっとしたり、そして一番大きな鈴を持つことのできた最後では、誇らしさで胸がいっぱいになるでしょう。カリジェは、初の国際アンデルセン賞作家賞を受賞したスイスの画家。他に、妹が主人公の『フルリーナと山の鳥』、兄妹が登場する『大雪』（いずれも同社）等があります。

## 『エンツくんきしゃにのる』

スズキコージ／さく

福音館書店 800円＋税



おじいちゃんのところへ初めて一人で行くことになったエンツくんは、ほげた町のほげた駅で、緊張しながら汽車に乗りました。汽車は、町を抜け、橋を渡り、トンネルをくぐり、どんどん進んでいきます。高原の駅では、羊飼いと羊達がたくさん乗り込んできて、車内が羊だらけになりましたが、皆で一緒に弁当を食べたり、眠ったりしているうちに、無事終点到着きました。

はっきりとした力強い輪郭で、色鮮やかに描かれた絵は、躍動感があり、登場人物や汽車が今にも飛び出してくるようです。一度見ると忘れられない程、強烈な個性にあふれる楽しい絵です。甥い子が一人で汽車に乗る緊張感や楽しさがユーモラスに描かれています。

## 『王さまと九人のきょうだい 中国の民話』

君島久子／訳

赤羽末吉／絵 岩波書店 1,200円＋税



昔、ある村に年寄り夫婦が住んでいました。子どものないことを嘆く二人は、不思議な老人にもらった丸薬によって、九人の子どもを授かります。老人が子ども達につけた名前が、「ちからもち、くいんぼう、はらっぱい、ぶつてくれ、ながさね、さむがりや、あつがりや、切つてくれ、みずぐり」です。誰一人動かさない宮殿の柱を、軽々と持ち上げたり、米倉の米を残らずたらいあげたりと、兄弟はそれぞれ、名前どおりの力を発揮して、横暴な郡の王様を倒し、人々に平安をもたらしました。中国の民族に伝わるお話です。

画面をのびやかに使い、登場人物の表情を豊かに描き上げた明るい彩色の絵は、奇想天外な物語を力強くユーモラスに盛り上げています。『白いりゅう黒いりゅう』(同社)に収録されているお話ですが、絵本なら四、五歳からでも楽しめます。

## 『おおかみと七ひきのこやぎ グリム童話』

フエクス・ホフマン／え

せたていじ／やく 福音館書店 1,300円＋税



昔、あるところに、お母さんやぎと七匹の子やぎがいました。ある日、母やぎの留守に狼がやってきました。白墨を食べて声をきいれに、ねりこつと粉で足を白くした狼にだまされ、戸を開けた子やぎは次々と丸のみにされてしまいます。助かったのは時計針に隠れた末の子やぎただ一匹です。事情を聞いた母やぎは狼を探しに行きました。グリムの有名な昔話です。

セピアを基調にし、抑えた色彩の絵はレイアウトにも工夫が凝らされ、絵を見るだけでお話がわかるので、小さな子ども達も楽しめるでしょう。この作品は、ホフマンが我が子への贈り物として作った絵本です。子やぎを見つめ、包み込む母やぎの深い愛情は、崩れ身のものなぞと通じるものがあり、本作品の魅力にもなっています。

## 『そらまめくんのベッド』



そらまめくんの宝物は、さやでできたふわふわのベッド。友達のだまめくんやグリーンビスの兄弟にも使わせようとしません。ある日、そのベッドがどこにも見あたらず、何日も探してようやく見つけますが、そこでは何となくずらが脚を温めていました。そのまま貸してあげようか様子を見ていたそらまめくんも、ひよこが生まれて大喜び。友達と一緒にベッドが見つかったお祝いのパーティーを開き、皆と一緒に眠りました。

丁寧に描かれた明るくやわらかな色調の絵は暖かく、かわいらしい登場人物も個々の姿を重ねて楽しむことでし

持ちをよくとらえたお話なので、読者の子どもは自分の姿を重ねて楽しむことができます。続編に「そらまめくんとめだかのこ」(同社)があります。

なかやみわ/さく・え  
福音館書店 743円+税

## 『だいくとおにろく』



昔、とても流れが速く、何度橋をかけても流される川がありました。橋かけを頼まれた名高い大工が川へ行くと、川の中から大きな鬼が現れ、目玉をよこせば橋をかけてやると言います。大工がいよいよ加減の返事をして帰ると、二日の内に立派な橋が出来上がりました。逃げ出す大工に、鬼は名前を当てれば許してやるよと条件を出します。

ふとしたことから鬼の名前を知った大工と鬼が交わす、スリルある名前当ての問答が子ども達を魅了します。怖い反面、どこかひょうきんな鬼も魅力です。昔話特有の勘繰る文章は、「ぶっくりに」に「かにか」などの独特な言葉で、読者をお話の世界に引き込みます。

大和絵と墨絵を交互に配し、絵色物の技法を取り入れた絵は、情景を鮮やかに描き出し、自然の迫力や豊かさまでも見事に表現しています。

松居直/再話 赤羽末吉/画  
福音館書店 743円+税

## 『たなばた』



君島久子/再話 初山道/画 福音館書店 743円+税  
昔、天の川を隔てた東西に、天女と人間が住んでいました。ある日、一人の牛飼いが牛に言われ、天の川へ水浴びに来た天女の織姫の着物を隠し、織姫を妻にしました。二人の子どもにも生まれ、幸せに暮らしていましたが、それを知って怒った天の王母に織姫は連れ戻されてしまいます。牛飼いと子ども達は後を追いますが、天の川は波が連綿と流れて、柄杓で水を汲み干そうと、三人は夜も昼も汲み続けました。かいそうに思った王母は、年に一度七月七日に織姫と会うことを許しました。

七夕の由来を伝える中国の説話を基にしたお話です。にじみやほかしの技法を生かした優美で幻想的な絵は、独特のデザインが印象的で、流麗な線で描かれた波や、天に輝く星々、かささぎの架け橋など、物語の世界を見事に描き上げています。

## 『旅の絵本1〜VI』



安野光雅/絵 福音館書店 各1,300円+税

一人の旅人が馬に乗って旅する様子を、淡くやさしい色調を使って繊密な美しい絵に仕上げた、海外でも人気のシリーズです。名所を織り込んだ風景や人々の暮らしが上空から眺めるように描かれています。随所に童話の主人公や歴史上の人物、名画や映画の一場面、騙し絵、隠し絵、ページを跨ぐ連続仕掛けの絵などが散りばめられていて、探してあるのも楽しみです。シリーズは、I.中部ヨーロッパ編 II.イタリア編 III.イギリス編 IV.アメリカ編 V.スペイン編 VI.デンマーク編の六巻です。自然と共にある懐かしくも美しい世界が描かれた文字のない絵本は、子どもから大人まで楽しめます。絵本の中に入って自由に想像し、どうぞゆくりと旅してみて下さい。

## 『だるまちゃんとなんげちゃん』



加古里子/さく・え  
福音館書店 743円+税

だるまちゃんとなんげちゃんは大の仲良し。だるまちゃんとはんげちゃんの持っているうちわや帽子、履物を見ては、自分も欲しくなります。大きいだるまどんが、その度に出してくる沢山の品は気に入らず、身辺にある物——ヤツデの葉、お椀、おもちゃのまな板——を見つけて代用します。長い鼻でも欲しがると、だるまどんは花と勘違いしますが、最後は家族皆でお願の鼻を作ってくれました。

だるまちゃんの素直な子どもらしさや、願いを叶えようと手を尽くす家族の暖かさが描かれた楽しい絵本です。絵は表情豊かでユーモアがあり、細かく描き出された品々も目を惹きつけてくれます。シリーズに「だるまちゃんとかみなりちゃん」「だるまちゃんとうさぎちゃん」(同社)等があります。

## 『たろうのおでかけ』



村山桂子/さく 堀内誠/え  
福音館書店 743円+税

たろうは、犬、猫、あひる、鶏と一緒に、仲良しのまろちゃんの家へ誕生日のお祝いに出かけました。贈り物にすまねとアイスクリームを持ち、嬉しい姿は大はしゃぎ。たろうを先頭にとっことこと駆け出して、黄信号を渡ろうとしたら、車道を横切ろうとしたら……。その度に、お巡りさんや郵便屋さん「だめ、だめ、だめ！」と注意されます。そして、ようやく帰ってきたら、誰にも注意されことなく、思い切りまろちゃんの家へ駆けました。

のびやかな線で描かれた鮮やかな絵とくり返されるリズムカルな文章は、たろう達の嬉しさに弾み気持ちをよく表しています。他に「たろうのほけつ」「たろうのとまたち」「たろうのひっこし」(同社)があります。

『はらべこおむし』 エリック=カール/さく もりひさし/やく

船成社 1,200円+税

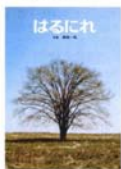


朝からかえった小さなあむしは、おなかをすかせて食べ物を探しに出かけました。月曜日はりんごを一つ、火曜日には梨を二つ、水曜日にはすももを三つ……、そして土曜日には、ケーキ、アイスクリームなどをたくさん食べ、おなかか痛くて泣きました。日曜日、おいしい緑の葉っぱのおかきでおなかか治ったあむしは、大きく太り、さなぎになって何日も眠ると、きれいな蝶になりました。

小さなあむしは、やがてきれいな蝶になるというストーリーを、カラフルな色の薄紙をコラージュして作った美しい絵本です。食べる果物が毎日一つずつ増え、土曜日には子ども達の好きなものがずらりと並ぶ光景に、子どもは喜びます。食べた後に穴が開くしかけも楽しめます。

『はるにれ』

姉崎一馬/写真 福音館書店 900円+税



大平原の中、空に向かって思い切り枝を広げた、たった一本立と立つはるにれの木。秋の夕暮れ、極寒の冬、春の霞、緑明ゆる夏、移りゆく季節の中で、姿を変えていく木の様子と周りの風景をとらえた、文字のない写真絵本です。

見開きページを使って、全景や大写真でとらえた写真は、自然の美しさ、厳しさ、暖かさ、雄大さ、力強い生命力を感じさせます。一枚一枚の写真をじっくりと味わってください。四季折々に表情を変えるはるにれの姿は、見る者に勇気や生きる喜びを与え、深い感動を呼ぶでしょう。読み終えた後、心が満たされる絵本です。幅広い年齢の子どもにも。

『バレエのすきなアンジェリーナ』 ヘレン・クレイグ/え

キャサリン・ホラバード/ふん さたむらまさお/やく 大日本絵画 入手不可



ねずみのアンジェリーナは、バレエが世界中で一番好きな女の子でした。お母さんに怒られてもバレエに夢中で、いつもどこでも踊ってばかり。困った両親は、アンジェリーナをバレエ学校へ行かせることにしました。思う存分バレエの練習ができるようになったアンジェリーナは、家や学校の事もきちんとするようになり、ついに、有名なプリマドンナになりました。

自分の好きなことを一生懸命やり続け、夢を叶えたアンジェリーナに、子ども達は勇気をももらいます。ペン画と淡い色の絵で、アンジェリーナの愛らしい表情が生き生きと表現されています。調度品、バレエの衣装や練習風景、舞台の様子など、細かく描き込まれた絵も楽しめます。特に女の子には人気の絵本です。シリーズに『アンジェリーナとおうじさま』（シリーズは、いずれも同社、入手不可）等があります。

『はろるとむらさきのくれよん』 クロケット・ジョンソン/作

岸田鈴子/訳 文化出版局 854円+税



小さな男の子のはろるとが、紫色のクレヨン一本で描き出す、不思議な空想の世界です。

ある晩、はろるとは月夜の散歩がしたくなります。でも、月が出ていません。そこではろるとは、紫のクレヨンで月を描き、道を描き、その道を通って、散歩に出かけます。恐ろしいドラゴンを描いて、怖くなくて逃げ出した、船に乗ったり……はろるとは、自分か描き出す空想の中で次々と冒険を重ねます。

白の画面上、主人公のはろると、はろるとが描くクレヨンの線だけで構成された絵本です。はろるとの描く世界は、まるで目の前で動いているかのようにとても楽しく、予想もつかない展開に、子ども達ははろるとと一緒にどきどきすることでしょう。続編に、『はろるとまほうのくにへ』（同社）等があります。

『パンやのくまさん』 フィービとセルビ・ウォーグジントン/さく・え

まさきりこ/やく 福音館書店 900円+税



パンやのくまさんは、パンを売る店と、車を一台持っていました。くまさんは、パンや、パイや、お誕生パーティーのための特別のタルトやケーキを焼いて、半分をお店で売り、もう半分は車で売りに行きます。くまさんが、朝早くから一生懸命働いて一日を終え、ベッドで眠るまでを描いたお話です。

子どもが手に取りやすい小型本で、絵は細かいところまで描き込まれていて、素朴で暖かみがあります。礼儀正しく働き者のくまさんは、ふわふわしたぬいぐるみのようなかわいらしさがあり、子ども達にとっても人気があります。シリーズは全五冊あります。

『ピーターラビットのおはなし』 ビアトリス・ポター/さく・え

いしいもこ/やく 福音館書店 700円+税



大きなお母さんの木のうさぎあなに、お母さんと四匹の小うさぎが住んでいました。いたずらっこのピーターはある日、お母さんの言いつけを破って、お百姓のマグレーグさんの畑にもぐりこみます。そして野菜を食べる途中でマグレーグさんにばったり出くわし、命からがら逃げ帰ります。

動物本来の習性を見失わずに忠実に描かれた主人公の動物達は、イギリスの田園を舞台に、冒険をくり広げます。起承転結のはっきりしたお話は、強い観察力によるスケッチから生まれた絵と一体となって、読者をボクア独特の物語世界へ誘います。透明感ある水彩画は、イギリスの風土や自然、生活を存分に描き、小型の絵本であるにもかかわらず、果てしない広がりを感じさせます。子ども達は、はらはらどきどきしながら、やんちゃなピーターを応援し、結末にはっと安心することでしょう。1902年に出版されて以来、世界中の子ども達に愛され続けています。シリーズは全部で二十四冊あります。

## 『山のクリスマス』

ルドウィヒ・ペーメルマンズ/文・え  
光吉夏弥/訳編 岩波書店 900円＋税



町の子どもは、一人で汽車に乗り、チロルの山のホームおじさんのところへ、クリスマス休みの道ごしに出かけます。シカの側やりについて行った、山の教会で真夜中のクリスマスの礼拝をしたり、山での生活を体験してたくましくなったハンジは、楽しかった思い出を胸に、名残惜しい気持ちで町へ帰って来ます。

山でのクリスマスの風習の数々が、日本の子ども達にも印象に残ることでしょう。オーストリア生まれの作者が、幼い頃に視したチロルの風物や、暖かみのある絵で明るく描いています。見返しに描かれた、おじさんの家の断面図も、楽しさを演出しています。少し長めの話ですが、読んでもらえば五歳ぐらいから楽しめます。

## 『やまのこどもたち』

石井橋子/文 深沢紅子/絵  
岩波書店 880円＋税



来年一年生になるたけちゃんを通して、東北地方の農村の子ども的一年を描いた絵本です。春、真っ白な梅の花が咲き、幼なじみとままごと遊び、こっそり梯子をかけて梨の木に登り、降りられなくなった、夏、秋は運動会、冬はお年越しの準備です。

下駄屋さんが家に来て、お盆に賑々しい下駄を買って帰ったり、運動会には重箱を下げて、一家総出で応援に行ったり、一件前の素朴な暮らしが、体験のない現代の子ども達にも共感でき、どこか懐かしさを感じられます。家の中に暖かい古い日本の民家での三世代の生活が、淡い色調で表現された絵は、温もりを感じます。姉妹編の、一年生になった『やまのたけちゃん』(同社)もどうぞ。

## 『ゆかいなかえる』

ジュリエット・キーブス/ぶん・え  
いしいもこ/やく 福音館書店 900円＋税



ゼリーのような雨の黒いところが大きくなって、おたまじゃくしになります。そして足がはえたらかえるになります。四匹のかえるがもぐったり、泳いだり、かたつむりを隠しこしたり、葉の陰に隠れてさぎを騙したり。夏は歌って遊び、冬が来ると土の中で花咲く春まで眠る、かえるの一年を描いた絵本です。

四匹のかえる達の動きが、のびのびと元気に描かれます。文章も軽快なリズムがあり、テンポ良く読み進めることができます。主に青と緑の色を使い、水辺とかえるの様子を印象的に表現しています。かえるという身近な題材は子ども達に大人気で、特に初夏に読んであげたい絵本です。

## 『ゆきだるま』

レイモンド・ブリッグズ/作  
評論社 1,000円＋税



ある朝目覚めると、外は雪が降っていて、男の子は大きなゆきだるまを作り始めました。帽子をかぶせ、マフラーを結び、みかんで鼻を、炭で目を作って出来上がり。そして夜中に男の子はこっそり起きると、ゆきだるまを家の中に招き入れます。家の中物で遊び、楽しく食事をした後、ゆきだるまは男の子を外に連れ出し、二人で雪の降る空を飛び回りました。

コマ割りで描かれた絵だけの、文章のない絵本です。淡い色彩で描かれた鉛筆画は繊細で美しく、ゆきだるまの温かみのあるやさしさにあふれています。翌朝、ゆきだるまは溶けてしまっていますが、男の子の心の中では、ゆきだるまはずっと友達でいるに違いありません。冬の夜の静かな時間に読みたくなる絵本です。

## 『ゆきのひ』

エズラ=ジャック=キープ/ぶん・え  
きじまはじめ/やく 偕成社 1,200円＋税



ある朝、ピーターが窓の外を見ると、雪が積もっていました。ピーターはマントを着て外へ飛び出し、雪の上には足跡をつけたり、雪だるまを作ったり、天使の形を作ったりして遊びました。そして、硬くて丸い雪だんごを作って、明日遊ぶためにポケットの中に入れました。ところが、覗き込みに帰る前にポケットに手をつまらさずと、雪だんごは消えてしまいました。悲しいピーターですが、翌日も天気は雪。今度は友達と二人で遊びました。

カラーズの技法が使われた絵は、計算された無駄のないデザインが美しく、色使いも鮮やかです。ピーターが雪の中でやっていた様々な遊びは、子どもなら一度はしてみたいと思うでしょう。ピーターが主人公の絵本は他に、『ピーターのいす』(同社)等があります。

## 『よあけ』

ユリー・シュルヴィッツ/作・画  
瀬田貞二/訳 福音館書店 1,200円＋税



おじさんと孫が湖の木の下で眠っています。月だけが照り、動くものがない夜明け前の湖畔。次第にもやがこもり、やがてこうもりが舞い出て、かえるが飛び込む音がします。鳥が鳴き、おじさんが孫を起こし、二人でボートをこぎ出したその時、山から朝日が射し、湖一面を照らしました。

最小限の言葉で書かれた詩的な文章が、抑えた色調の水彩画と融合し、湖畔の時間の移り変わりや、明け方近づく静寂を余す所なく伝えます。山と、湖に映る山が一体になった、日の出の場面の鮮やかな緑は、ページをめくった瞬間、息をのむほどの美しさです。自然の深い美しさに生命の喜びまで感じることができます。

えほんだいすき!



生駒市図書館